



飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida



イマジン ローター

RI会長 ジェニファー E.ジョーンズ

第2570地区ガバナー 村田貴紀

第3グループ
ガバナー補佐 白井威

地域と世界でつながる力を磨き奉仕を実践しよう!

第3032例会 2022. 9. 28

—— 基本的教育と識字率向上月間 ——

天候 晴 (NO. 59-13)

会長 矢島高明 幹事 市川昭

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 細田(吉)君、本間君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 ☎357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 ☎357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 矢島高明会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ビジター (寄居) 小宮俊光様 高倉隆綱様
- ・卓話 中里昌平会員

【会長報告】

高倉様、小宮様、ようこそお出で下さいました。秋晴れの行楽日和、お隣日高市では巾着田曼珠沙華まつりが開催中。500万本程の花が見頃です。日高RC 40周年記念式典 11/15には飯能RC全員で花を添えたいと考えております。

9/22「帝国ホテル」での地区大会には私と市川幹事、大崎SAA、馬場エレクト、前島、本橋委員長、吉澤前SAA、中山、天ヶ瀬、小谷野(大)会員と参加。3会員には早くから会場でご尽力頂き、事務局の西川さんには受付でご協力頂きました。会員368名が参加、411名が登録されたそうです。

先の理事会で入会承認されていた野田直人様より、体調が万全でないとの理由で辞退の申し出があり、大変残念ですが受け入れさせて頂きました。

【幹事報告】

地区大会の動画配信は直前のPW変更でご迷惑をお掛けしました。10/5第5回理事会です。

◎財団寄付バッジ贈呈

マルチプルフェロー

★矢島高明会長

★細田伴次郎会員

(4回目)



【出席報告】無届欠席1 中里(徳)出席向上委員長

会員数		当日	
全数	対象	出席数	出席率
70名	5名	59名	84.29%

【M U】

9/22(地区大会) 矢島(尚)君、市川君、大崎君、馬場君 吉澤君、前島君、中山君、本橋君、天ヶ瀬君、小谷野(大)君

【ロータリーの友】

鈴木(康)雑誌委員「9月号」横組P7~特集「バックナンバーでたどる『友』70年」時代を感じる表紙群。Web上でBN閲覧が出来ます。P24、京都RC千玄室さん99歳は特攻隊員として出撃寸前で終戦。与えられた命を世のためにとの思いで活動されています。縦組P4、隈研吾さん。コロナウイルスで人類は歴史の「転換点」ではなく「折り返し点」を迎えたとの事です。

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

・お世話になります。寄居RC小宮、高倉です。久々のMUよろしくお願ひします。ちなみに高倉さんは初めてのMUで弱冠29才です。

(寄居)小宮様、高倉様

・寄居RC小宮様、高倉様、ようこそ飯能へ。前島君

・中里(昌)様、続けての卓話有難うございます。

・例会2回欠席して心臓のペースメーカー手術を

しました。今は何とか順調です。新井君

本日計14,000円、累計額191,000円。

◎5日例会当番は秦、原島会員です。

【卓話】

講師紹介 山川職業分類委員長

職業分類は「婦人服地製造」、歴史ある「(株)マルナカ」の社長です。たっぷりとお願ひします。

デザイナーと共に

飯能RC 中里昌平会員

パリコレを中心に活躍されているデザイナーとの

付き合いがあり、先月亡くなられた三宅一生さん、森英恵さんも取引頂いたブランドです。1955年創設の「毎日デザイン賞」は国際的、文化的な賞として高い評価を受けていますが、繊維業界からの最初の受賞者がファッション部門の三宅一生さんでした。「服飾を芸術に高めた思想家」と評され、サブデザイナーとして大勢のデザイナーを育てられました。繊維業界からの受賞は少なく、1996年「ブリーツをはじめとする衣服素材の開発」皆川摩鬼子さん、2006年「ホテルマンダリンオリエンタル東京のテキスタイルに集約された一連の活動」須藤玲子さん、2015年「思いをとどける服づくり」皆川明さんです。

中国の台頭等で日本の繊維業界は衰退の度を深めその危機感からか政府は繊維製造業者への支援を開始。一環としてCBF(クリエイション・ビジネス・フォーラム)という展示会を催します。全国の生地生産者の中から第1回は20社がノミネート。経済産業省支援の下「東京フォーラム」で開催、その後5年間継続。そこにはパリ、ミラノ、ニューヨーク、ロンドンに次いで東京をファッションのメッカにしようという目的もありました。

第1回に行われた3名のテキスタイルデザイナーの協賛特別展示は奇しくも偶然、毎日デザイン賞に入賞された方々でした。皆川摩鬼子さんは三宅一生の「ハート」のブランドの主任デザイナーで、私共の方へもよく来られておりました。[パリコレの映像]パリコレに出展するブランドから私共には少ない時間で2~3点、多い時は30点位の依頼があります。

須藤玲子さんは作品がニューヨーク近代美術館はじめ多くの美術館に永久保存されており、東京造形大学の講師で国内のテキスタイルデザイナーの第一人者です。「マンダリンオリエンタル東京」38階建てのホテルは「大きな樹木」、それを支えているのが「森と水」ということです。[飯能日高テレビの映像]

インテリアだけでも相当量ですが、須藤さんは全て国産で賄おうと日本中の業者に働きかけられました。消防法に触れておられましたが、消防法がデザイン上で布づくりをいろいろ阻害しています。「防災」をクリアするにはポリエステル以外使えません。欧米は日本程ではないと聞いております。天然繊維でなければ表現出来ないものも沢山ありますが日本では駄目です。ドレープカーテンを使った一室。ランプシェードとソファにも私共の生地が使われております。



皆川明さんは特に現在親密に関わっているデザイナーの一人です。一昨年、デザイナー生活25周年を迎えられ、東京都現代美術館で展覧会が開かれました。その模様はNHK「日曜美術館」で放映され、先月再放送されました。[映像鑑賞]

この美術館ではファッション関係の催しがよく行われ、多くのデザイナーが利用しています。また、皆川さんは朝日新聞日曜版「日曜に想う」の挿画も連載されています。

これはいろいろ話題を呼んだ私共の製品です。次の映像によってデザイナーのモノづくりに対する考え方がお解かり頂けるとと思います。「変化した袖口」流れを追わないテキスタイルは非常に力強いものを持っています。今までお話してきたデザイナーに共通して言える事ではないかと思えます。トレンドで激しく変わるのがファッションの世界と思っておられた方は多いと思います。勿論そういったファストファッションのブランドもあります。猫の目の様になるファッション界の中でも皆川さんの作品は10年後、20年後も

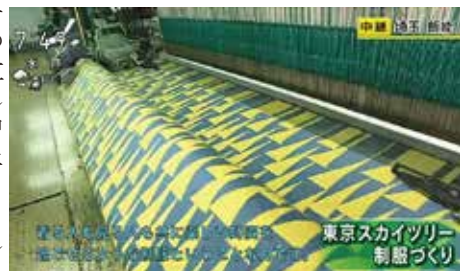


人の心をつつ作品として残るのではないかと思います。

東京スカイツリーのスタッフの制服は皆川さんのデザインです。7種類のうち、プリント以外は全て私共で生産させて頂きました。織物は、織物としての上がりも良くても製品にしてパツとしないものもあります。所謂「仕立て映えない」というものですが、

思った通りのものが出来たということで関係者全員に満足して頂きました。

開業4か月前にNHK「おはよう日本」で工場の様子が実況中継されました。前日、日曜日の昼過ぎから中継車を交えて3台12人のスタッフがやって来て準備に取り掛かりました。夕方戻り翌朝5時半に再開。リハーサル等を含めて準備完了。当時の朝ドラ「カーネーション」の10分前位の放送でした。中継中に機械が止まらないよう祈るような思いでした。



[実況中継映像]

スカイツリーをエレベーターで上がった350m地点の展望台に「江戸一目図(ひとめず)屏風」が飾られています。文化6年(1809年)に描かれた、江戸の全景を想像で描いた景観図です。作者は岡山・津山藩お抱えの浮世絵師・鉾形蕙斎(くわがたけいさい)。隅田川東岸上空から見下ろした鳥瞰図ですが、スカイツリーから見た情景と実に良く似ているのでここに飾られたようです。スカイツリーにあるのはレプリカで、実物は岡山の津山郷土博物館にあります。

左に江戸湾、下に隅田川を配置。江戸城の周囲には大名屋敷が並び、三の丸から大手門、日本橋には商家と人の賑わいが見られ、墨田川と神田川の合流点には両国橋、上野は不忍池から弁天島、寛永寺が描かれ、浅草は浅草寺に雷門、向島、吉原等、著名な名所が250か所も描かれ、遠景には秩父や丹沢の山々が霞むように、その中央に霊峰富士がひととき大きく描かれています。

同じ作者が描いた浮世絵「日本一目図」を以前、私共で織り上げ、飯能市に寄贈しました。現在、市民活動センターに展示してあります。

上田埼玉県知事の企業訪問を受けた折、大分前に織った「飯能市全図」を見てもらったところ、大変興味を持って見ておられました。この航空写真は高度1万m位から撮った1枚物で、データに著作権があり購入したものです。知事があまりに熱心に見ておられるものですから、一番新しいものを取り寄せて織ったものを会議所の落成に併せて飾らせて頂きました。その際のデータは前の物と違って精度が高く、100点近くに分割されていたので、これを1つにまとめる作業が大変でした。

「江戸一目図屏風」のデジタルデータが2、3年前にWeb上に開示されまして、複製準備に取り掛かりました。とは言え著作権もあり、縦118列、横61列、計7200点に及ぶ膨大な分割データを連続させないことには織物になりません。浅草・雷門辺りでは脇差をさした武士から駕籠かき、町人の区分けが見て取れる位詳しく判ります。ボケ防止に丁度良いと思ひ、暇を見てはデータ構築に取り組んでおります。津山の博物館には連絡して許可を取っておりますので、いつの日か皆さんに見て頂けるように頑張りたいと思っております。